

『口腔腫瘍外来』の現況

歯学部附属病院 口腔外科

新垣 晋、星名秀行、林孝 文

歯学部附属病院で対象とする口およびその周囲は、日常生活を営む上で非常に重要な機能をたくさん持っています。中でも食事の摂取から味覚・嚥下、呼吸、会話などは、その人の長年の個性を示す大切な部分です。これらの機能は一見何気なく営んでいますが、口腔の非常に細かな諸器官が集まって作りあげられます。しかし、残念ながら、ここにもいろいろな病気が発生します。その中でも腫瘍（できもの）は腫瘍自体およびその治療が、これらの機能に影響を及ぼす可能性の高い病気です。腫瘍は悪性と言われるものでさえも、診断・手術法の改良、薬の開発などにより、以前に比較して飛躍的に良好な生命予後が得られています。特に口腔の腫瘍は、直視できる部位に生じ、他領域と比較しても歯科治療中などに比較的早期に発見されることが多いため、80%近い5年生存率（腫瘍が見つかったから5年間生存する割合で、一応腫瘍が完全になくなったという指標とされる数字です）を示しています。

そこで、当病院ではより早く的確な診断を下し、処置をすることで、さらに治療効果を上げるとともに、治癒後もより効率的に機能を回復させ社会復帰できるように、専門細分化した歯科の各科が知恵を出し合って患者さんの管理にあたっています。

診断にはCTやMRI、超音波診断装置など数種の画像機器を駆使し、正確かつ早期に診断することが大切です（写真1）。最終的な診断は一部分を切除する病理組織診断や免疫組織化学的診断（写真2）、遺伝子診断（写真3）などにより決定し、最も適した治療法、治療後の管理体制も含め検討します。

治療については、手術による切除、抗癌剤による化学療法、放射線療法（医学部と併診）、免疫療法、温熱療法（写真4、本院で特徴的な治療です）

などが本院でも可能ですが、それぞれの患者さん（患者さんの全身状態や腫瘍自体の状態など）により、最も適した方法を選択し、または組み合わせることで、前述の様に本院での生存率は80%近い良好な成績を得ています。

このような高い生存率が得られることは、患者さんにとって朗報ではありますが、治療の中心が手術による切除になるため、術後の機能についての管理も大切です。そのために、切除した歯肉や粘膜、顎（あご）の骨の再建術やインプラント（人工歯根、写真5）、義顎（入れ歯）などにより、失われた形態を再度付与し、リハビリテーションにより知覚の異常（しびれ、痛み）や機能（発語、嚥下、咀嚼機能）を回復させることにより、QOL（生活の質）の向上に努めています。このような術後の管理は、腫瘍に対する定期的な観察とともに非常に重要です。

1. 診療内容

顎顔面口腔に発生する腫瘍および腫瘍性病変の診断と集学的治療

2. 診療日および診療時間

月～金曜日 午前9時～午後3時

3. 診療体制

口腔再建外科診療室、顎顔面外科診療室、画像診断・診療室、歯科麻酔科診療室、加齢歯科診療室、義歯（入れ歯）診療室、義歯（冠・ブリッジ）診療室、病理検査室、言語治療室

4. 問い合わせ先

口腔腫瘍は無症状に経過することが多いですので、早期発見がとて大切で。

口腔ドック（検診）も行っていますので、ご相談はお気軽に下記窓口までどうぞ。

口腔外科 新垣 晋、星名秀行、林 孝文
TEL：025-227-2954、2955

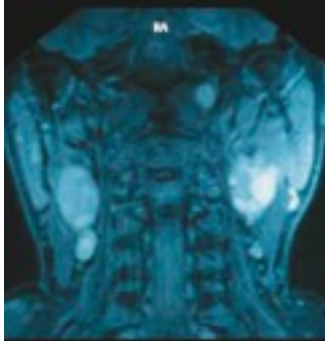


写真1 画像診断 (両側頸部リンパ節転移巣のMR像)

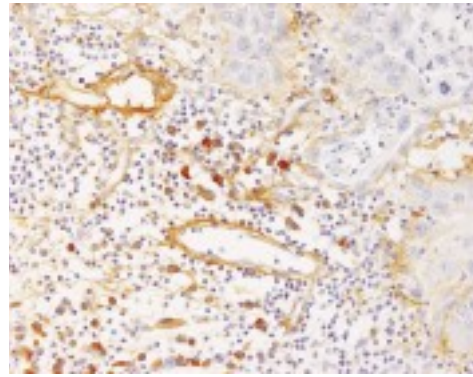


写真2 免疫組織化学的診断 (MMP1)

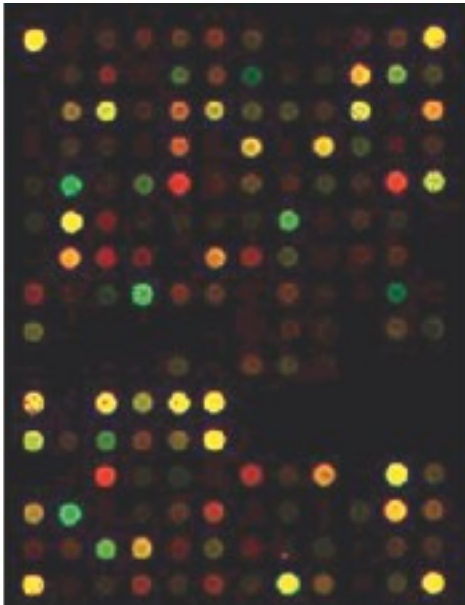


写真3 遺伝子診断 (マイクロアレイ解析)

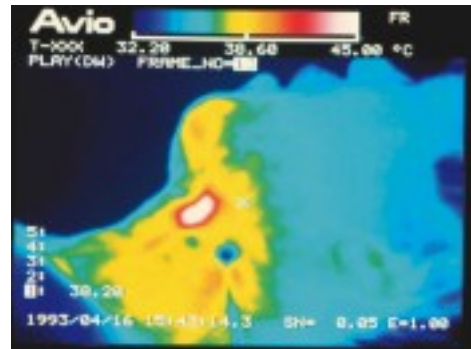


写真4 温熱療法時のサーモグラフィー

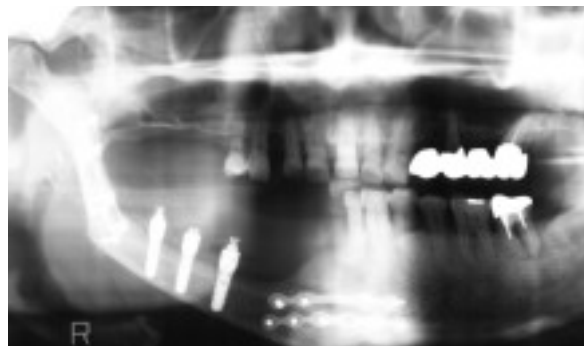


写真5 足の腓骨により再建した下顎骨とインプラントのX線像